

2012年3月期 決算説明会

2012年5月2日
ヤマハ株式会社

2012/3期 決算の概要



外部環境

- 世界経済は夏場以降、欧州債務問題の拡大を主因に減速し、先行き不透明感が更に拡大
- 日本は東日本大震災の影響から徐々に回復も個人消費の力強い回復は見えず
- 史上最高水準の円高は一服も依然として高水準で推移

決算の概要

- 2012/3期は対前期減収減益
東日本大震災の直接間接の影響やタイの洪水影響などが主要因
- 対前回予想では増収、営業、経常各利益では増益
当期利益は繰延税金資産321億円の取り崩しにより大幅な損失(4/26発表)

2012/3期 業績概要



▶ 通期業績は前回予想に対し増収、営業、経常各利益で増益
 当期利益は大幅な損失

(億円)

	11/3 実績	12/3 実績	前期比	前回予想 (12/2/2発表)	前回予想比
売上高	3,739	3,566	▲4.6%	3,540	+0.7%
営業利益 (営業利益率)	132 (3.5%)	81 (2.3%)	▲38.4%	75 (2.1%)	+8.1%
経常利益 (経常利益率)	110 (2.9%)	73 (2.0%)	▲33.9%	60 (1.7%)	+20.9%
当期利益 (当期利益率)	51 (1.4%)	▲294 (—)	—	0 (—)	—

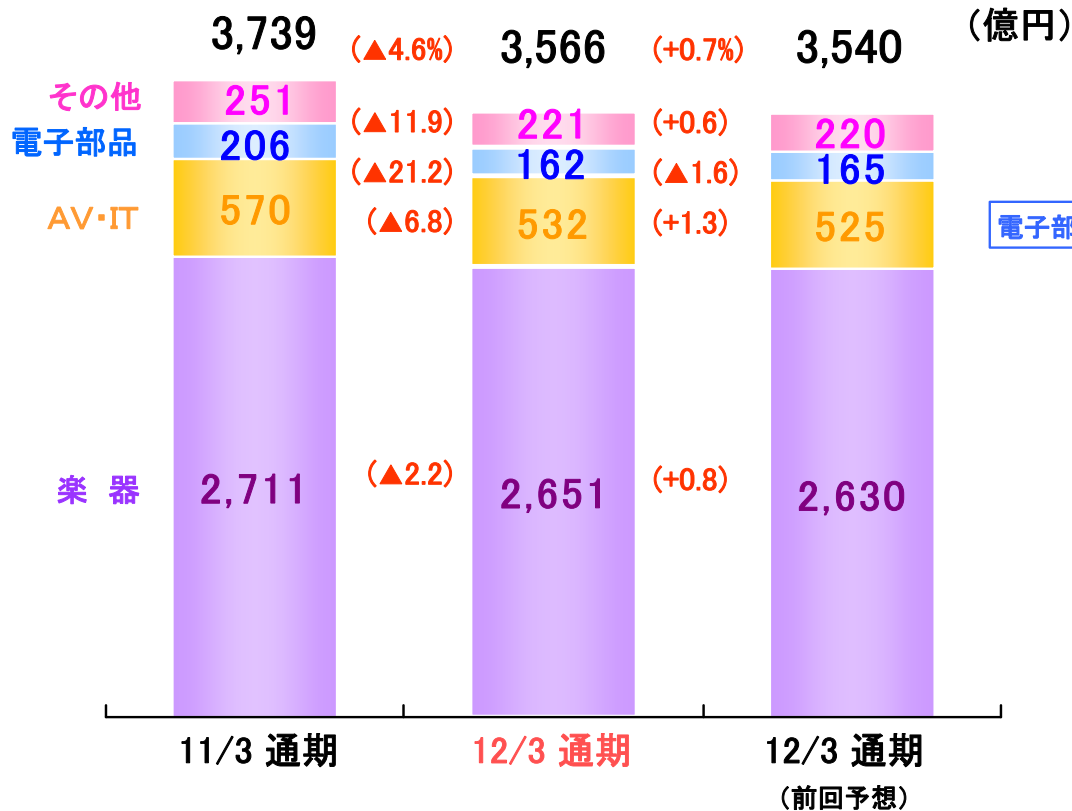
為替レート		(円)		
売上高	US\$	86	79	78
	EUR	113	109	109
利益	US\$	86	79	78
	EUR	115	112	112

* 前回予想は2012/2/2発表

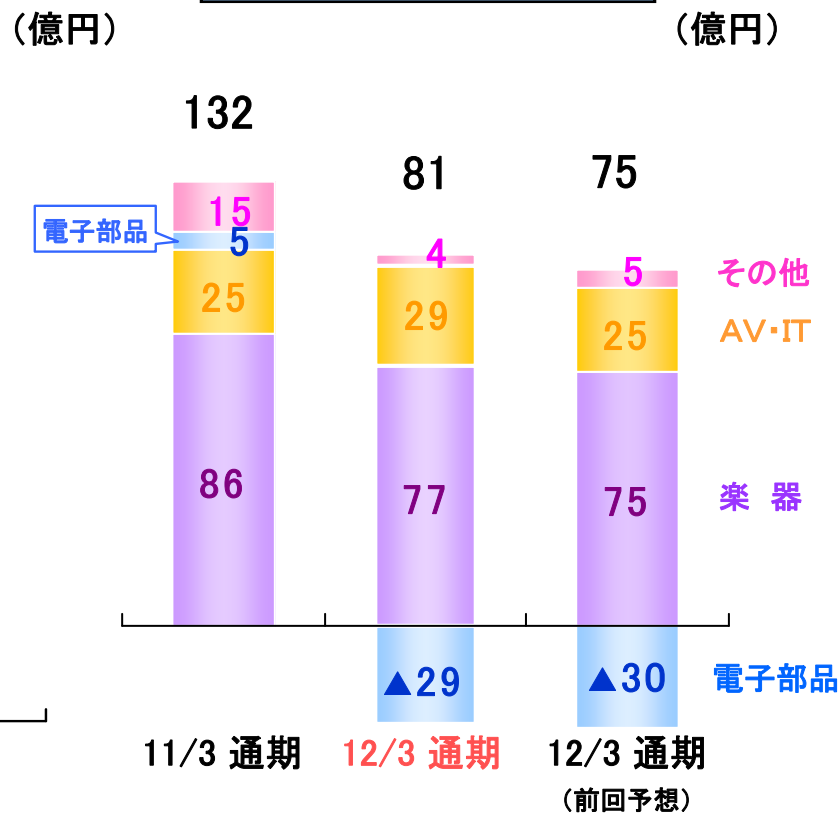
2012/3期 通期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前期比
または
前回予想比

* 前回予想は
2012/2/2発表

	為替影響額
前期比較	▲103億円 (楽器 ▲80億円、AV・IT ▲19億円、 電子部品 ▲3億円)
前回予想 比較	+11億円 (楽器 +9億円、AV・IT +2億円、 電子部品 +1億円)

	為替影響額
前期比較	▲27億円 (楽器 ▲27億円、AV・IT +1億円、 電子部品 ▲1億円)
前回予想 比較	+0億円 (楽器 +0億円、電子部品 +0億円)

東日本大震災及びタイ洪水の影響



■東日本大震災による影響

	売上高	▲95億円
	営業利益	▲35億円

※生産高影響 ▲40億円

■上記東日本大震災影響以外の影響

部品供給再開後の生産遅れ	売上高	▲20億円
	営業利益	▲15億円
タイ洪水影響	売上高	▲13億円
	営業利益	▲5億円

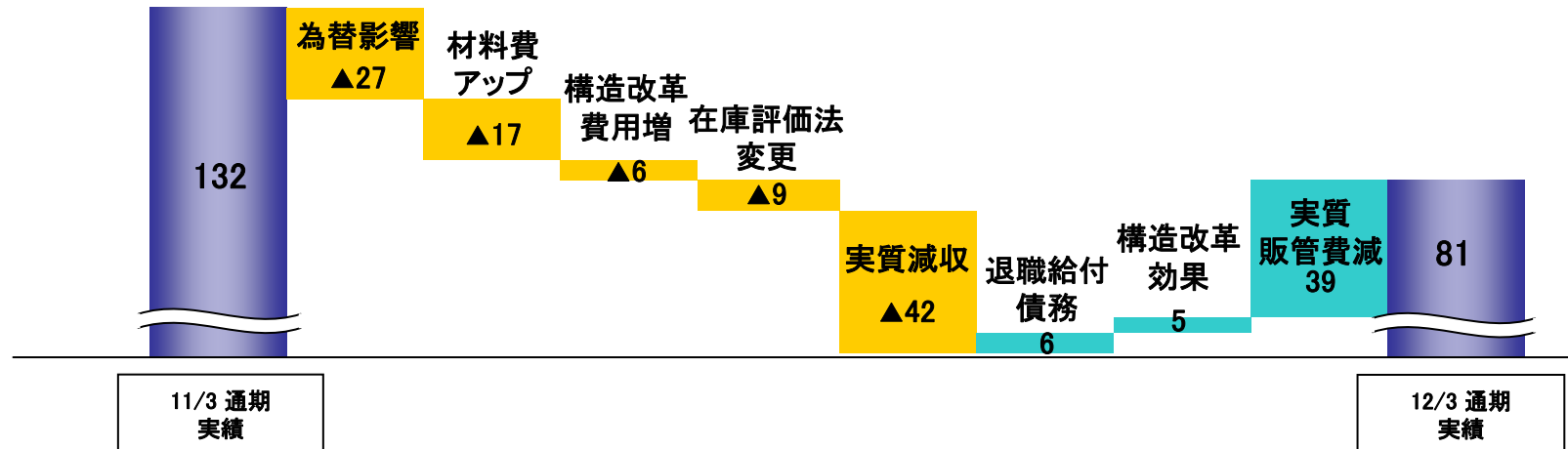
合計	売上高	▲128億円
	営業利益	▲55億円

2012/3期 通期営業利益増減要因

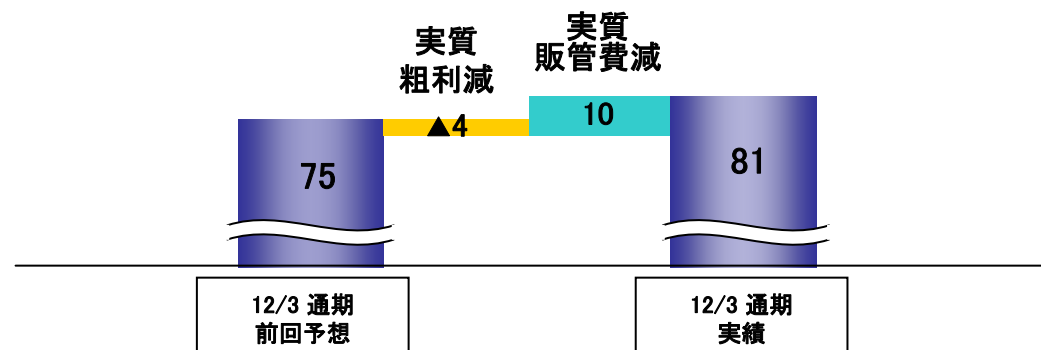


前期との比較

(億円)



前回予想との比較



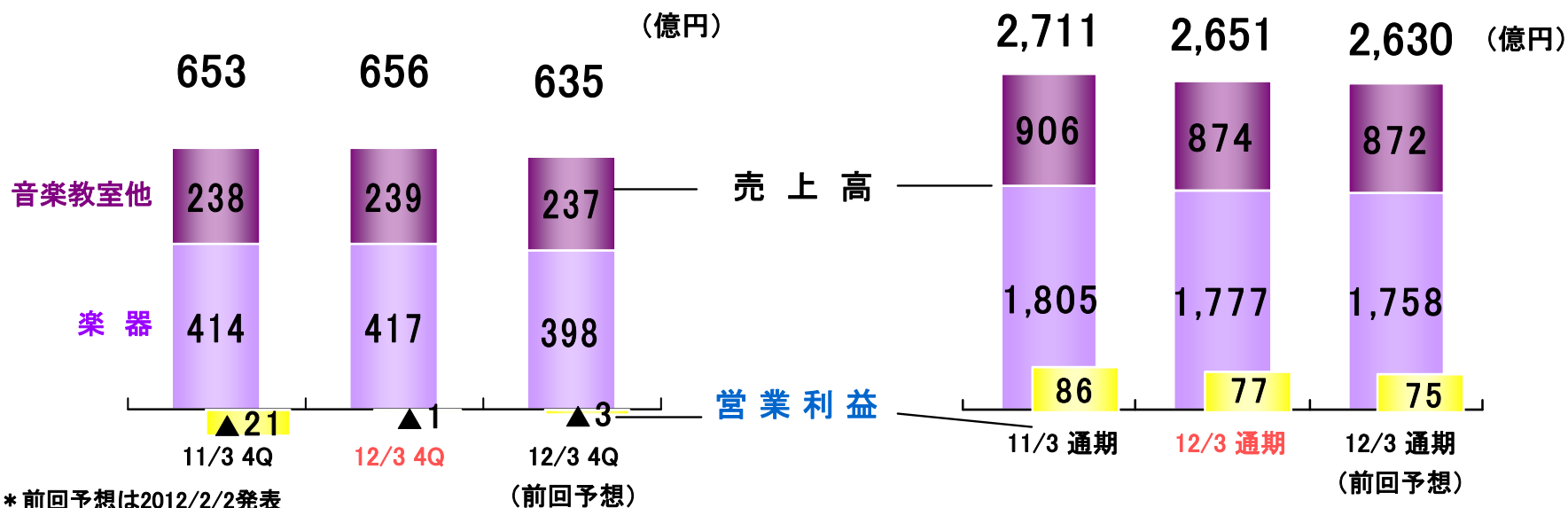
* 前回予想は2012/2/2発表

4Qの状況

- ・対前年同期損益改善、対前回予想では増収
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比3.0% (20億円)の増収。対前回予想でも実質12億円の増収
- ・北米は回復基調も欧州市場は減速
中国及び新興国市場は好調を持続
- ・商品別には、電子楽器が生産回復に伴い堅調に推移

通期の状況

- ・対前期減収減益。対前回予想では増収増益
- ・為替影響(▲80億円)を除いた実質売上高は、前期比0.7% (20億円)の増収
- ・北米は前期比▲2%、欧州も▲3%の実質減収
日本は前期比▲3%の減収。中国等新興国市場は成長継続
- ・商品別には、主力の電子楽器が震災影響で実質前年並み
- ・ピアノは、日本、北米を除く地域で実質増収、中国に加えて
その他地域は2桁の実質増収
- ・管楽器、PA機器、ギターを中心とした弦打楽器が実質増収



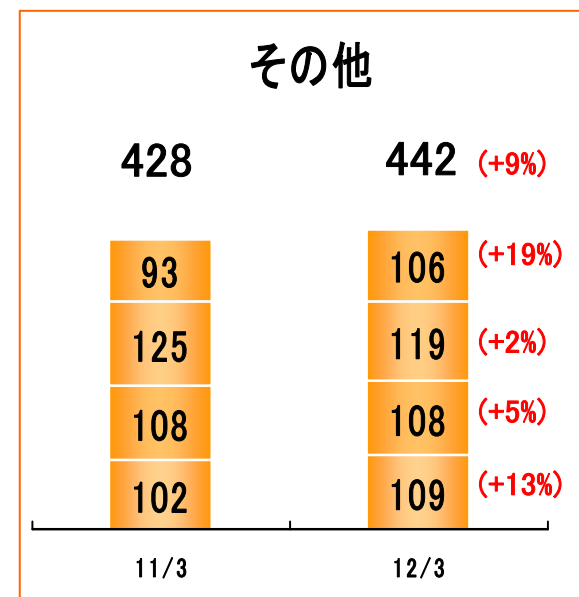
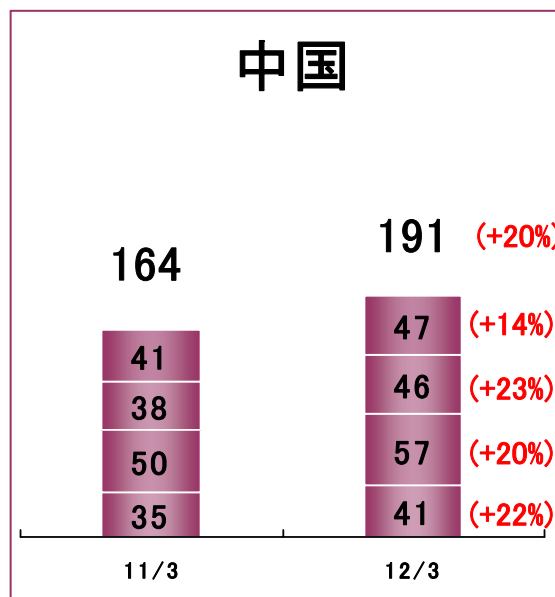
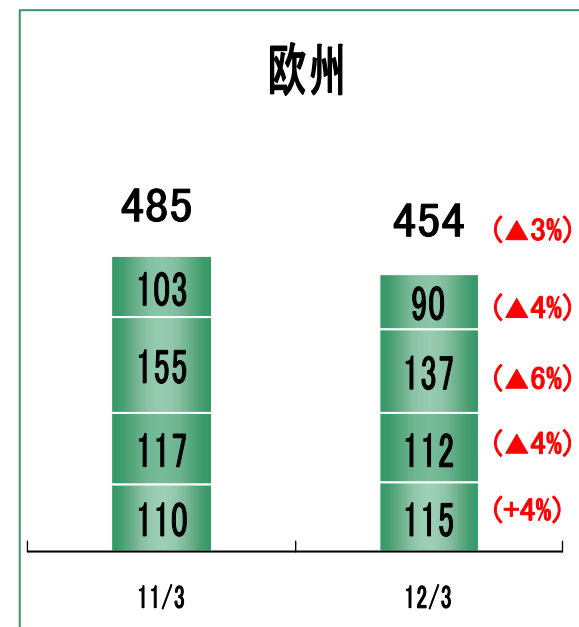
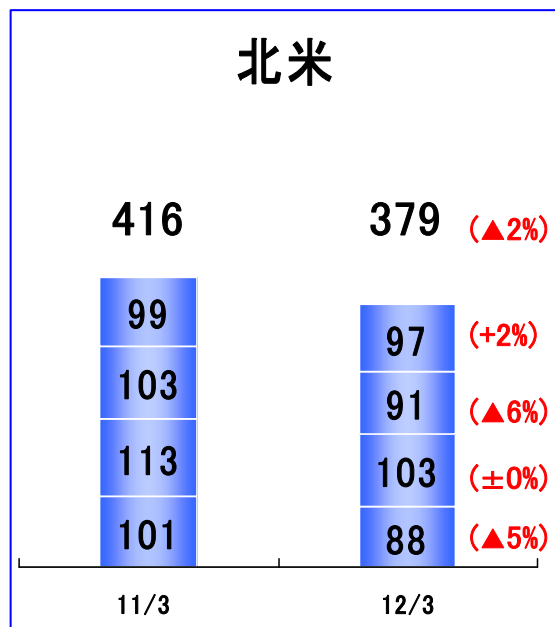
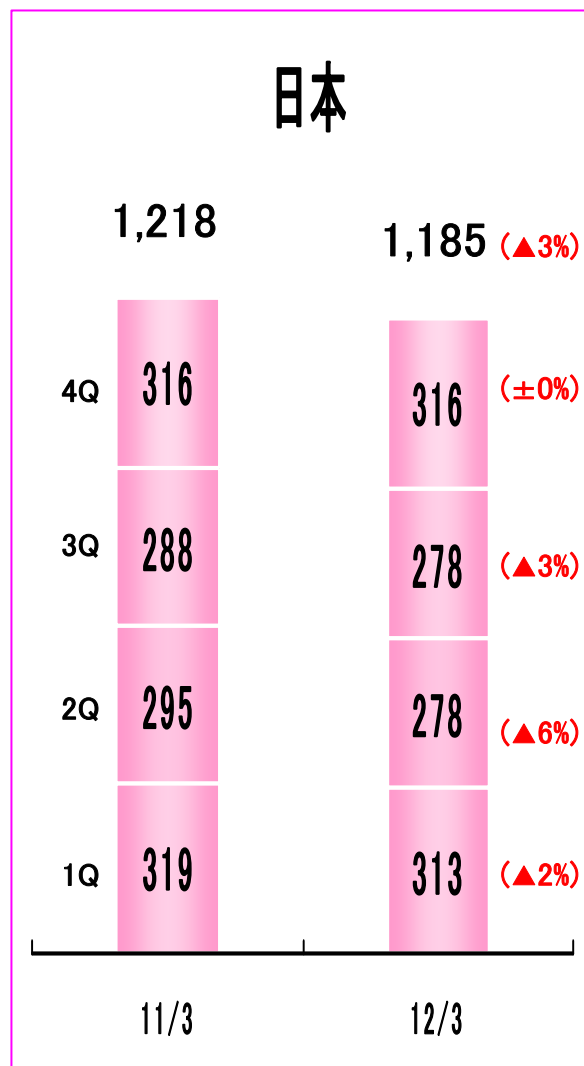
* 前回予想は2012/2/2発表

楽器事業(地域別の販売状況)



(億円)

*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

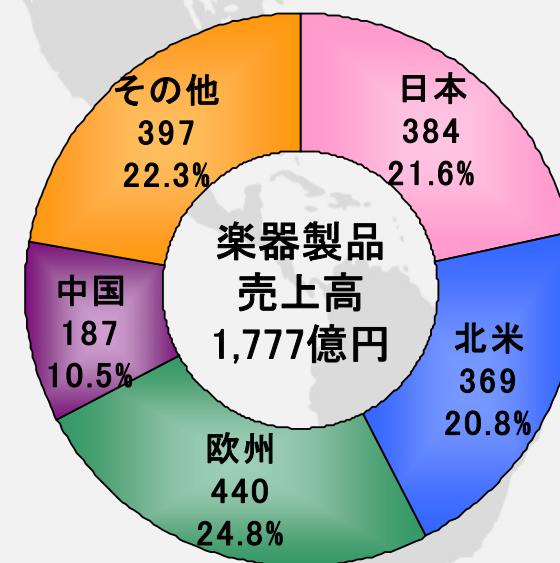


楽器事業(地域別の販売状況)



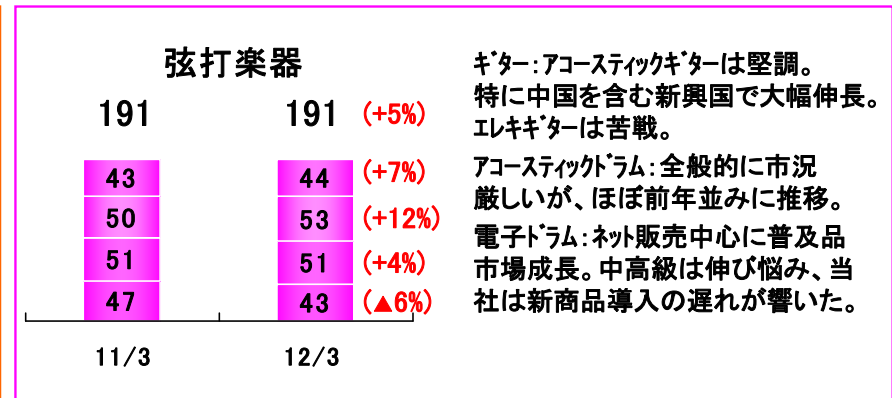
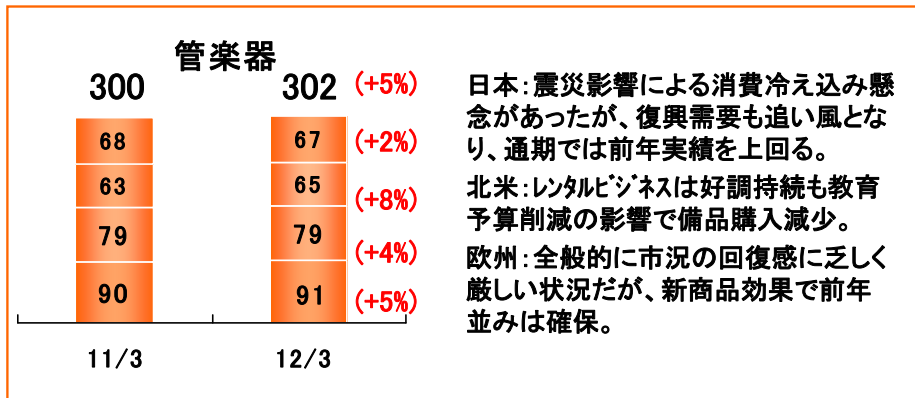
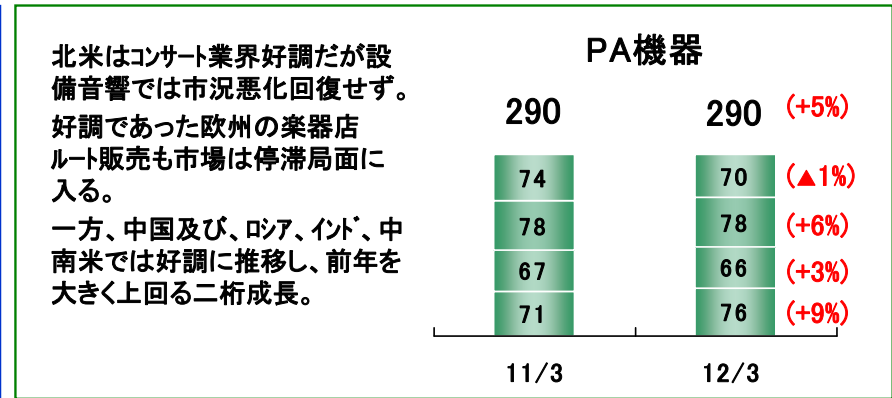
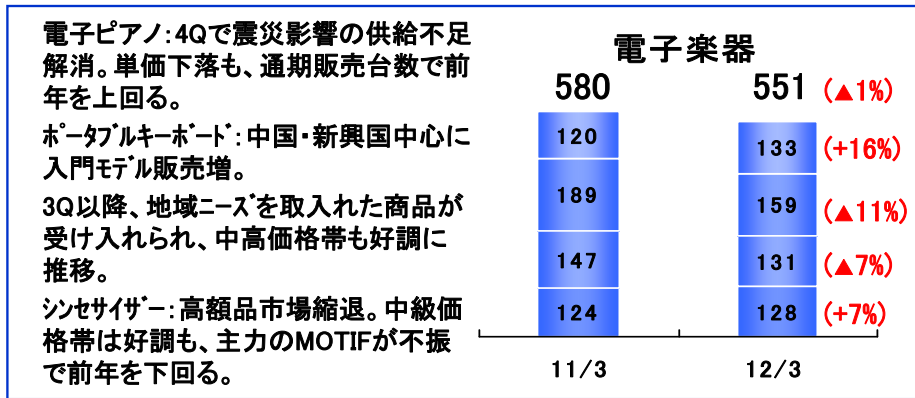
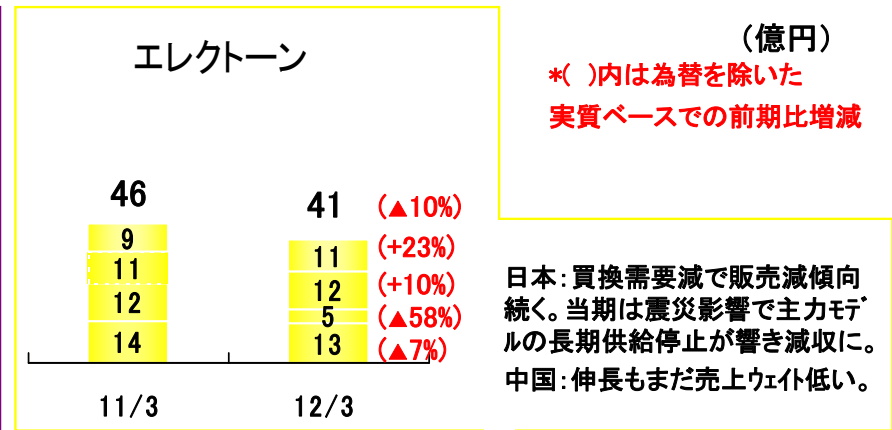
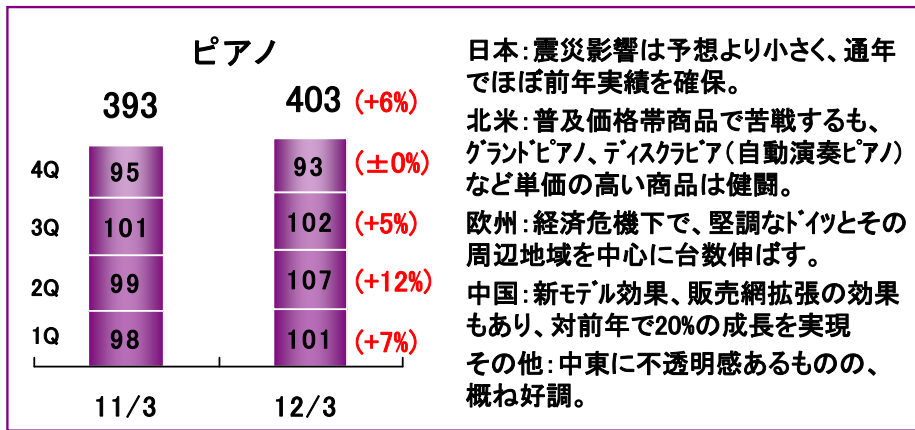
楽器地域別状況	
日本	震災影響による供給不足のイレートーンは早期生産再開により注残解消できたが、その後の受注が伸びず対前期減収。電子ピアノもほぼ注残解消したが、他社に市場シェアを奪われ量販ルートでの販売苦戦。ギターはエレキ・アコースティックギター及び新型アンプTHRが好調、管楽器は復興需要などの大型物件により対前期増収。設備音響機器、楽器販売ルートの音響機器は前年並みで推移。市場全体では対前期若干の減収。
北米	市場は緩やかに景気回復基調。ピアノは、全体では対前期減収となったが、音大対策活動が奏功しグランドピアノ、アパングランドの販売は伸長。管楽器もレンタル向け需要好調で前年を上回る。ギター、設備音響機器も新商品を軸に後半堅調に推移。電子ピアノ・ポータブルキーボード、電子ドラムは震災影響による商品供給不足で年末商戦で販売苦戦するも4Qにて注残解消。
欧州	独中心に成熟市場はピアノ好調。新興国市場もピアノが牽引。経済危機の南欧地域は苦戦、英はピアノ以外は軒並み苦戦。商品別はピアノが対前期増収。電子ピアノは後半回復も前年実績に届かず。ポータブルキーボードも他社価格攻勢で苦戦。管楽器、ギターは前年並みで推移も、設備音響機器は苦戦、楽器販売ルートの音響機器は堅調も市場は減速気配。
中国	2・3級都市では販路を拡大、都市部では中高級品向け展示を強化。普及価格品とのバランスを図りながら成長を確保。ピアノ、電子ピアノの主力商品が20%を超える成長を継続し全体を牽引。吹奏楽バンド指導者育成を通じ管楽器も販売増。ギター、電子ドラムでは専門店や専門教室での販売が急成長。
その他の地域	主要新興国ではロシア、インドが電子楽器、ピアノ、ギターの増売で、2桁成長。インドネシア、タイやブラジルを含めた南米も底堅く成長を維持している。中東・アフリカでも、イラン、北アフリカ諸国始め政治不安を抱える国が多く、跛行性があるものの地域全体としては成長。オセアニアは楽器店の再編などの影響で苦戦続く。

楽器製品売上高の地域別内訳



2012年3月期

楽器事業(商品群別の販売状況)

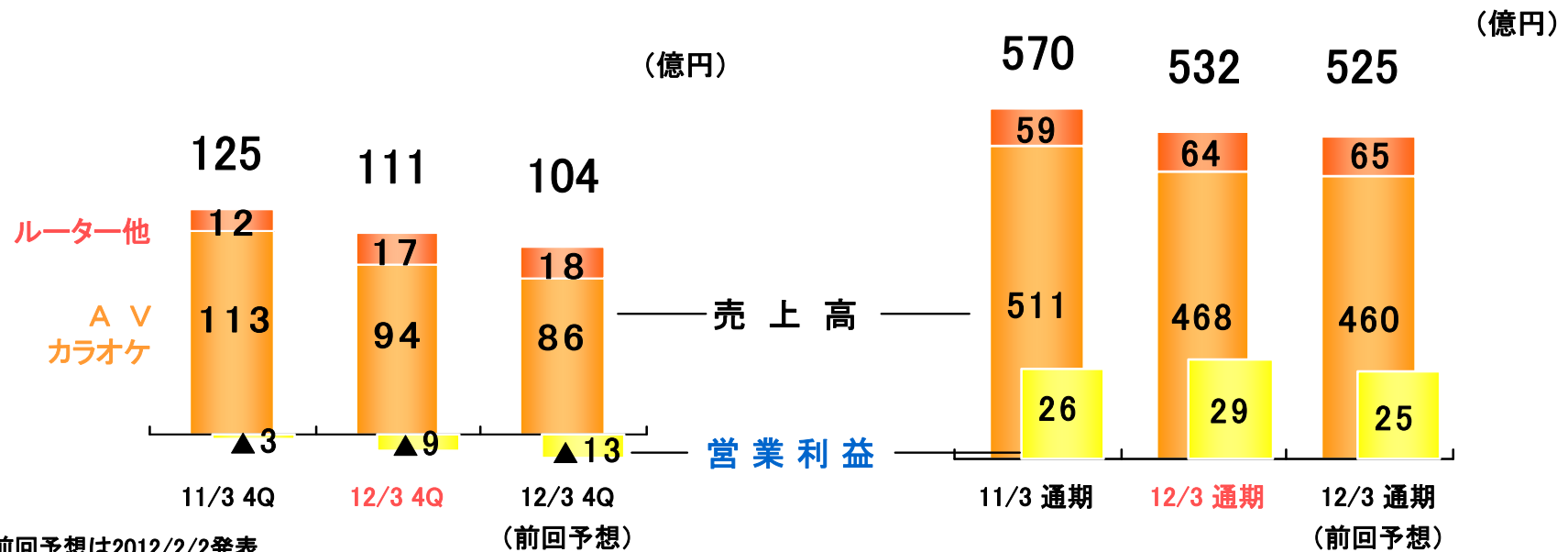


4Qの状況

- ・対前年同期では減収減益
対前回予想に対しては増収増益改善
- ・ルーターは投資回復の兆しで堅調に推移
- ・通信カラオケは出荷調整等で対前年減収

通期の状況

- ・対前期減収増益、対前回予想増収増益
- ・AV機器は北米、欧州は実質前年並み、その他地域は好調
- ・通信カラオケは前期の新製品効果減と震災影響で減収
- ・業務用ルーターが堅調に推移

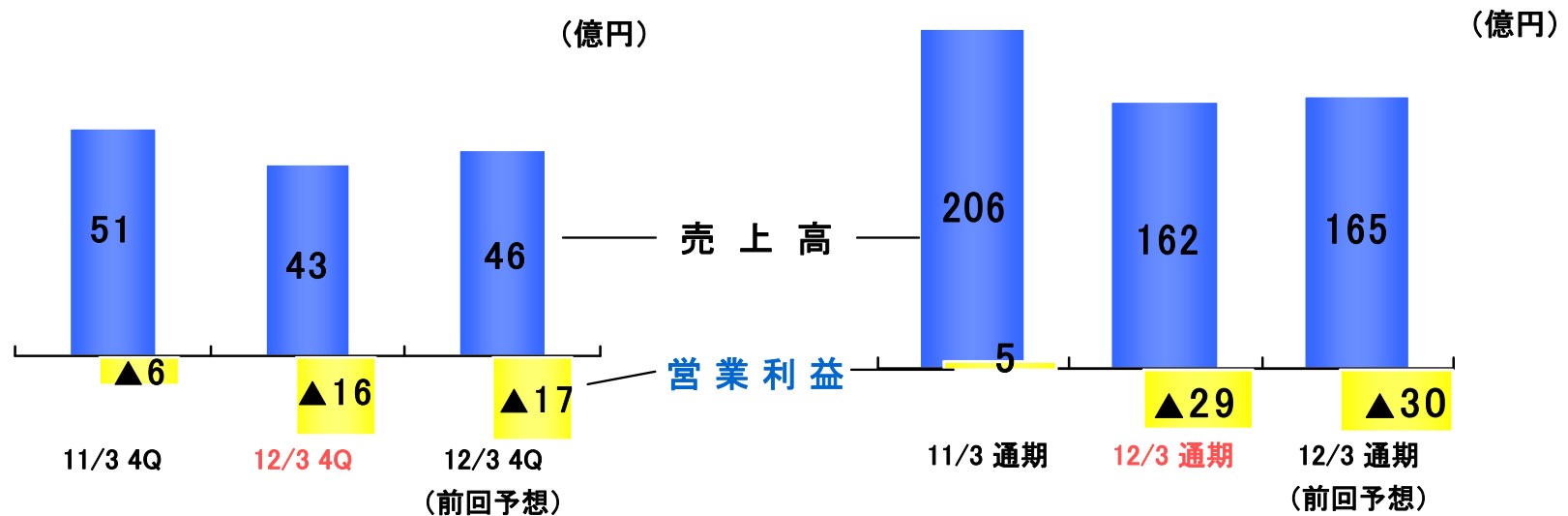


4Qの状況

- ・対前年同期減収、対前回予想でも減収
- ・売上高は、完成品メーカーの販売不振、販売価格の低下等でほぼ全ての用途で対前年同期、対前回予想減収

通期の状況

- ・対前期減収減益、対前回予想でも減収
- ・アミューズメント市場回復遅れ、完成品メーカー不振販売価格の低下などで厳しい状況継続
- ・スマホ向け地磁気センサー数量増も販売単価下落
- ・人員の配置転換等による販管費削減実施



* 前回予想は2012/2/2発表

その他の事業

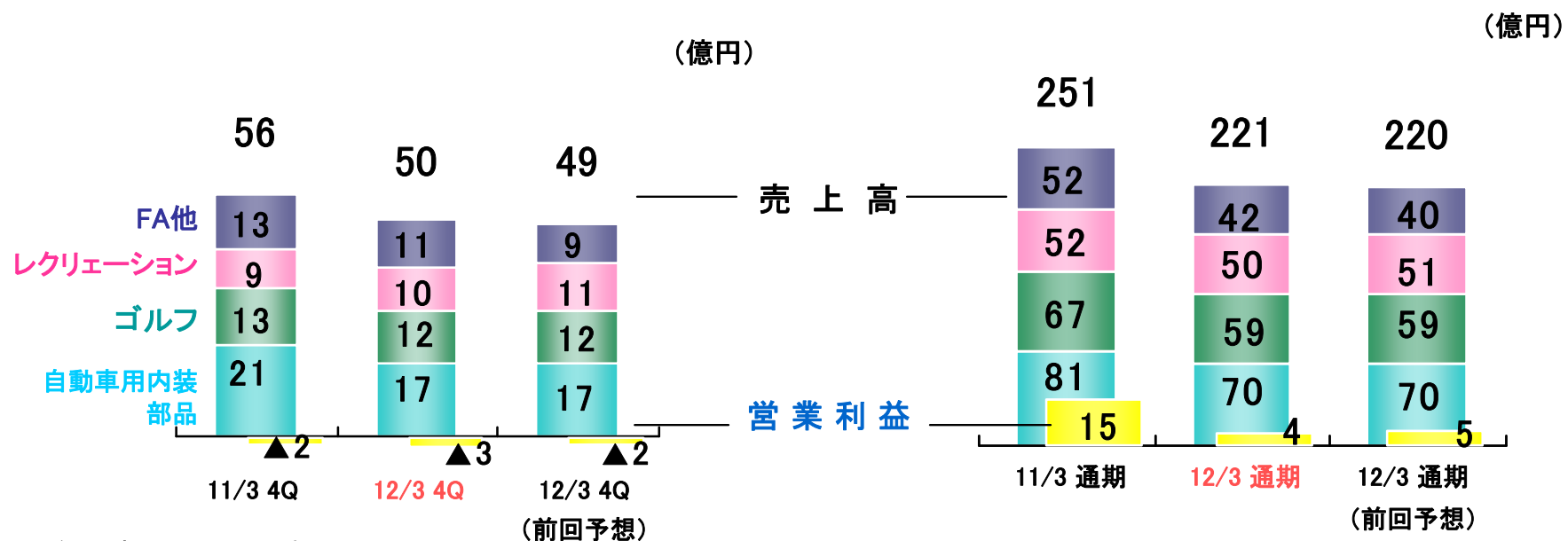


4Qの状況

- ・対前年同期減収損益横ばい、対前回予想通り
- ・自動車用内装部品は対前年同期減収
- ・ゴルフは市況停滞と競合激化
- ・レクリエーションは対前年同期増収

通期の状況

- ・対前期減収減益、対前回予想では予想通り
- ・自動車用内装部品は、東日本大震災影響により対前期減収
- ・FAは国内投資厳しく対前期減収
- ・ゴルフは競合激化で対前期減収



* 前回予想は2012/2/2発表

事業環境

- 世界経済は欧州市場を中心に不安定な状況
- 中国は成長率鈍化も確実に成長、新興国市場も堅実な拡大を見込む
- 円高基調は継続
- 部品調達環境の改善等正常化を見込む

業績見通し

- 対前期増収増益を予想
- 震災影響を受けた電子楽器やタイ洪水影響のAV機器などの生産が正常化し適切な時期での市場への商品供給が回復
- 電子楽器、PA機器、AV機器中心に成長を見込む

2013/3期 業績予想



(億円)

	12/3 実績	13/3 予想	増減額	伸び率
売上高	3,566	3,780	+214	+6.0%
営業利益 (営業利益率)	81 (2.3%)	145 (3.8%)	+64	+78.8%
経常利益 (経常利益率)	73 (2.0%)	130 (3.4%)	+57	+79.2%
当期利益 (当期利益率)	▲294 (—)	90 (2.4%)	+384	—

為替レート

(円)

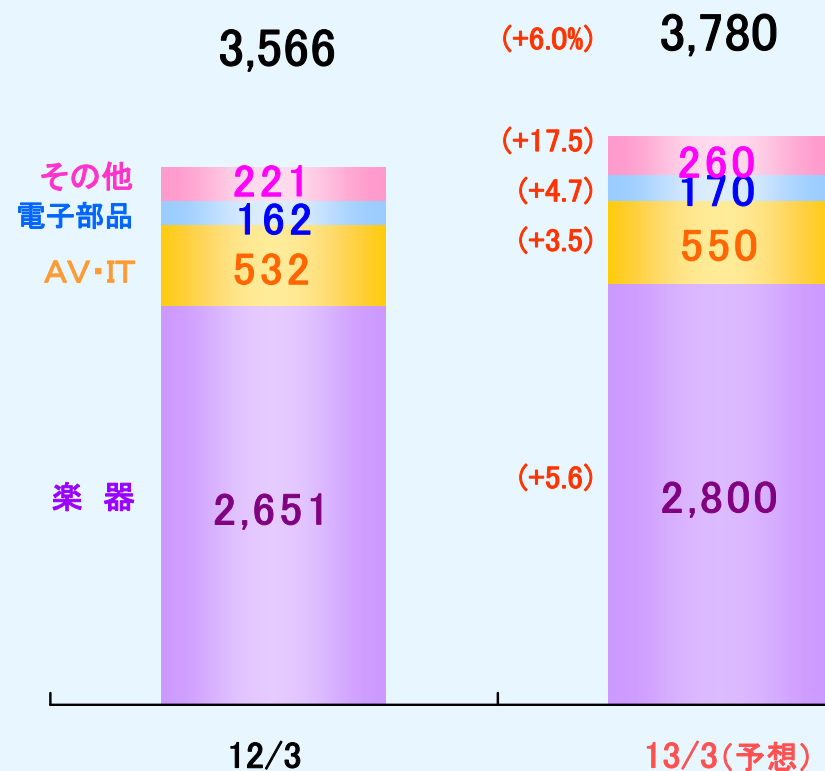
売上高	US\$	79	75
	EUR	109	105
利益	US\$	79	75
	EUR	112	105

2013/3期 事業別業績予想



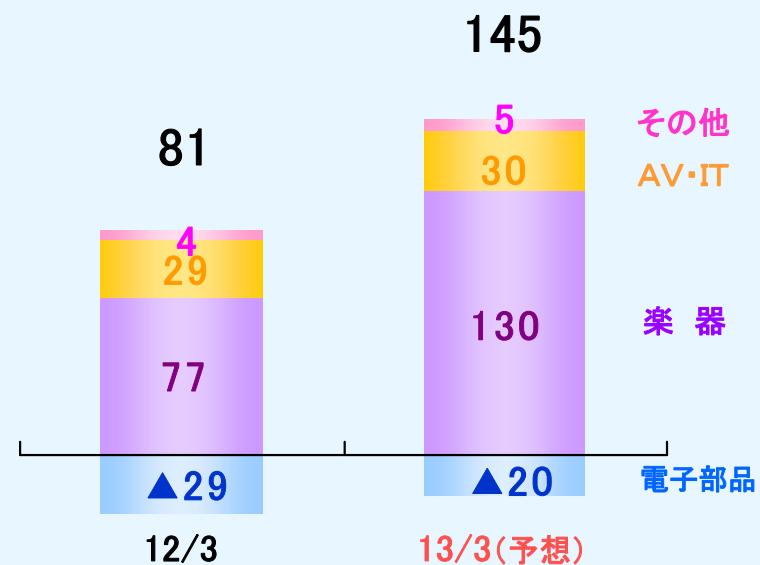
売上高

()内は前期比
(億円)



営業利益

(億円)



	為替影響額
前期比較	▲73億円 (楽器 ▲56億円、AV・IT ▲15億円、 電子部品 ▲2億円)

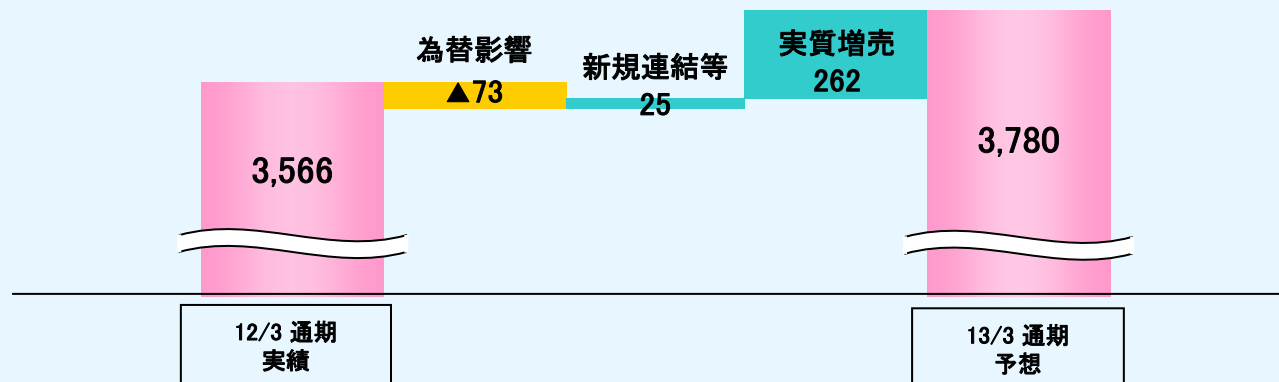
	為替影響額
前期比較	▲44億円 (楽器 ▲34億円、AV・IT ▲9億円、 電子部品 ▲1億円)

2013/3期 売上高・営業利益予想増減要因

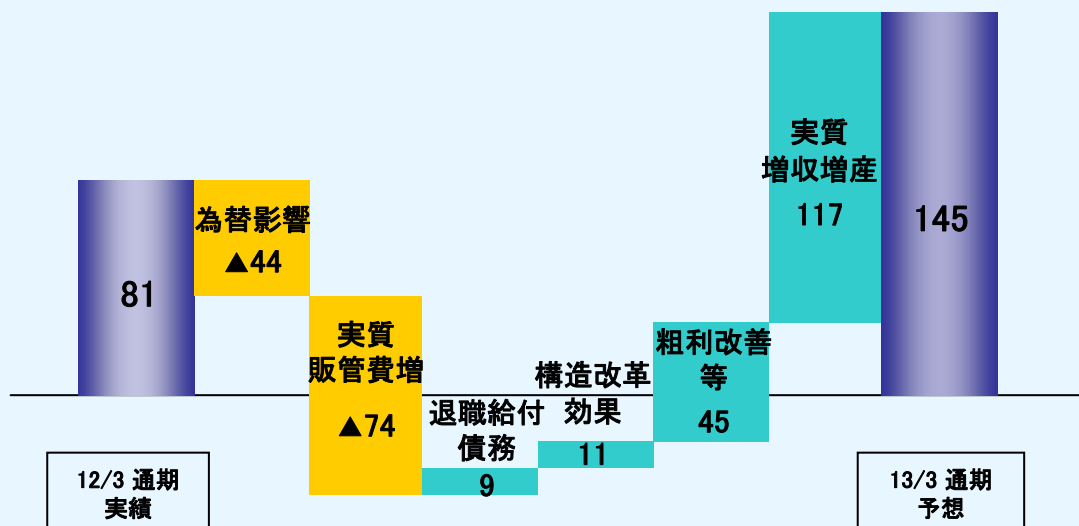


売上高

(億円)



営業利益



楽器事業(予想)

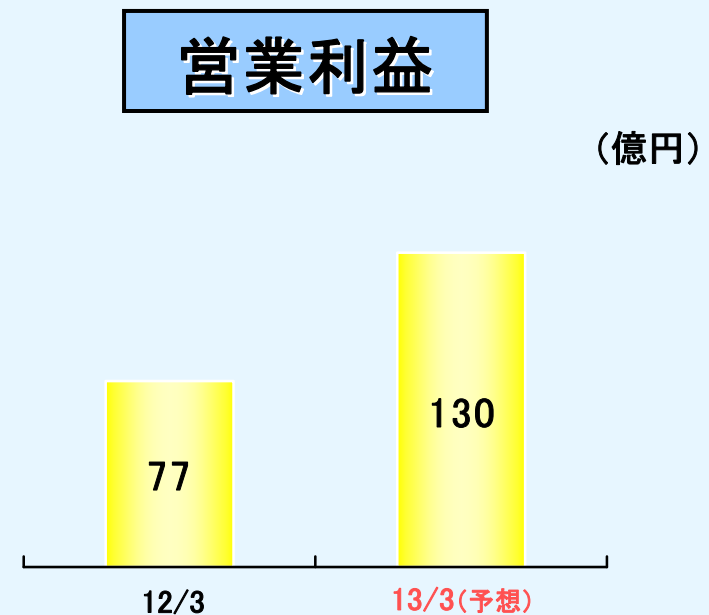


■市場環境

- ・北米は回復基調も欧州市場は不透明感が継続
- ・中国等新興国市場では成長モメンタムが継続
- ・流通再編進行(大型店、量販店シェア拡大、Web販売)

■重点施策

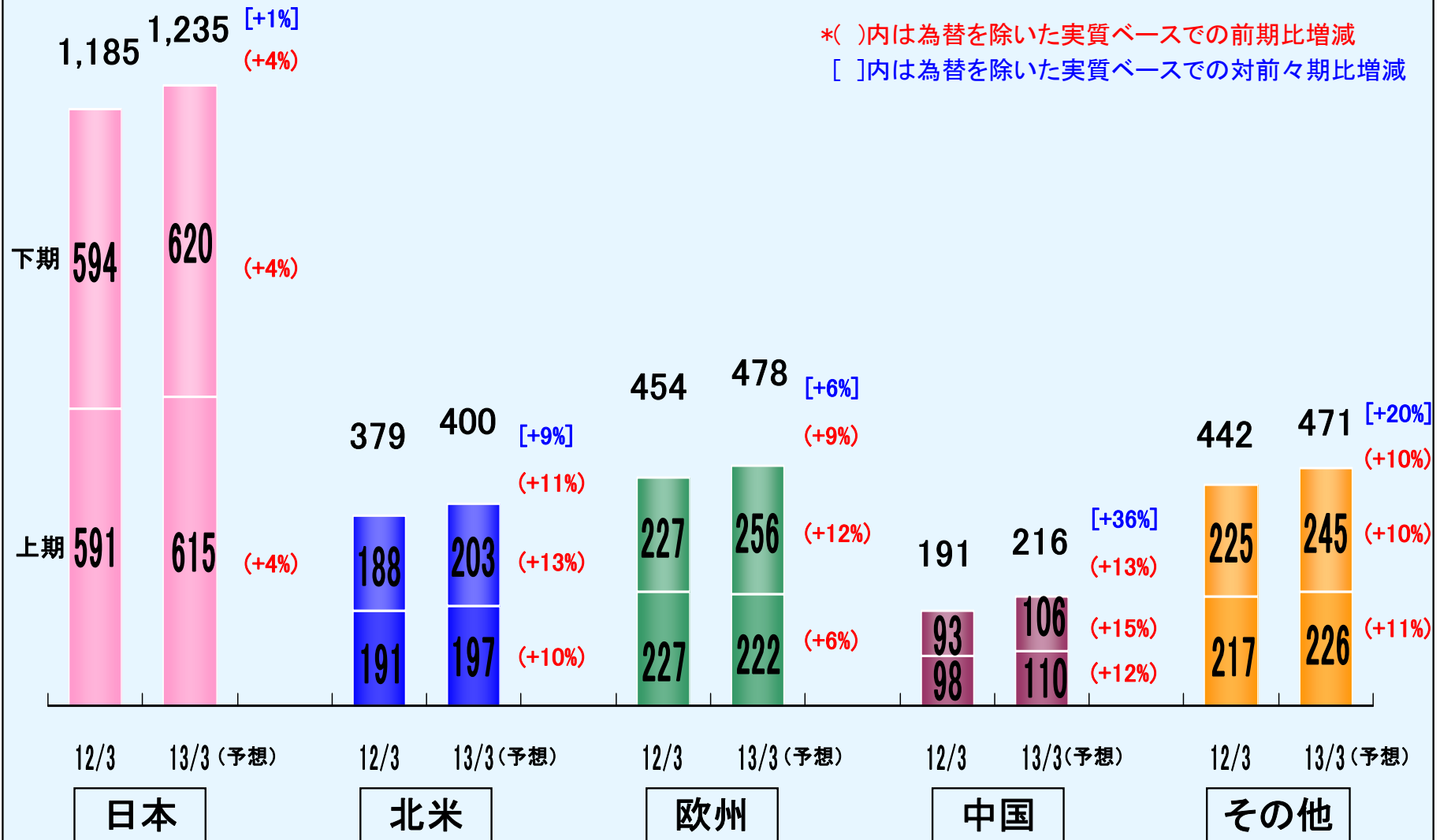
- ・中国を含む新興国市場での拡販
- ・生産構造改革の成果出し、損益改善のスピードアップ
- ・電子楽器を中心にタイムリーな開発とコストダウンの追求
- ・国内営業の構造改革の検討加速



楽器事業(地域別の販売予想)



(億円)

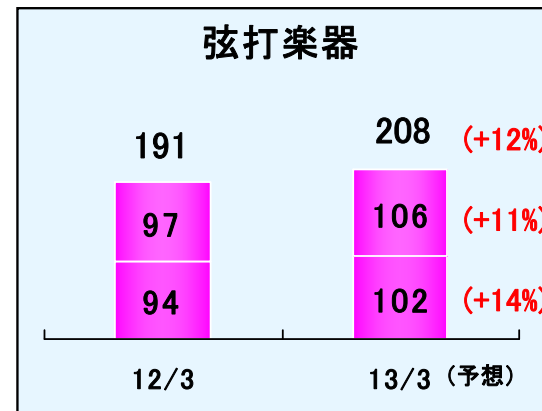
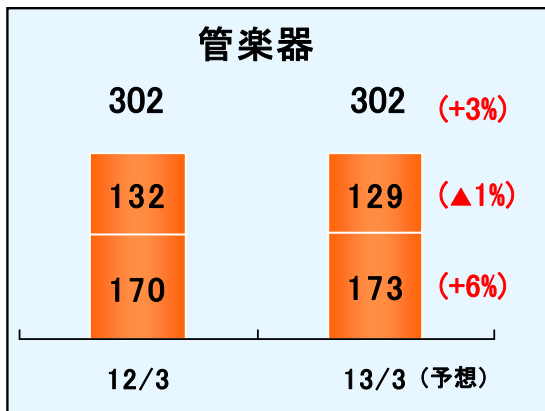
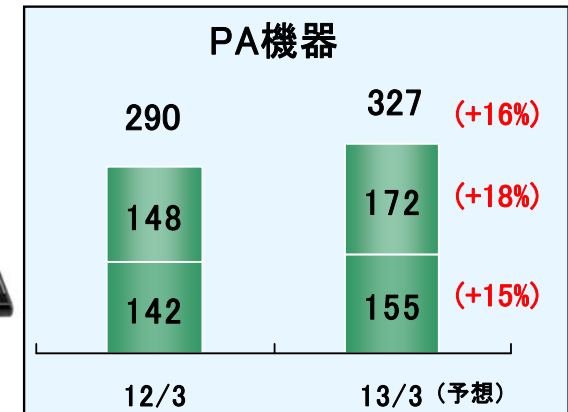
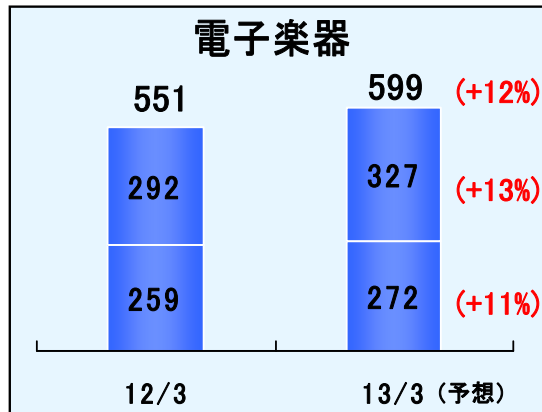
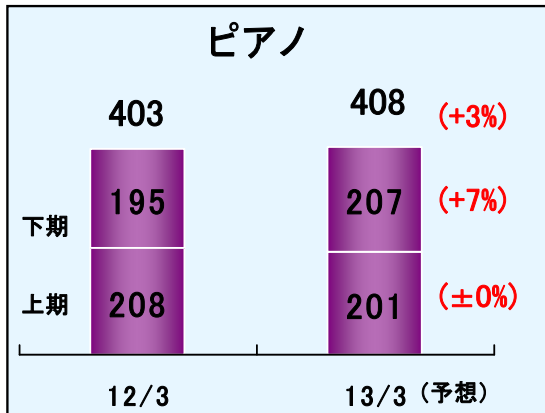


楽器事業(商品群別の販売予想)



(億円)

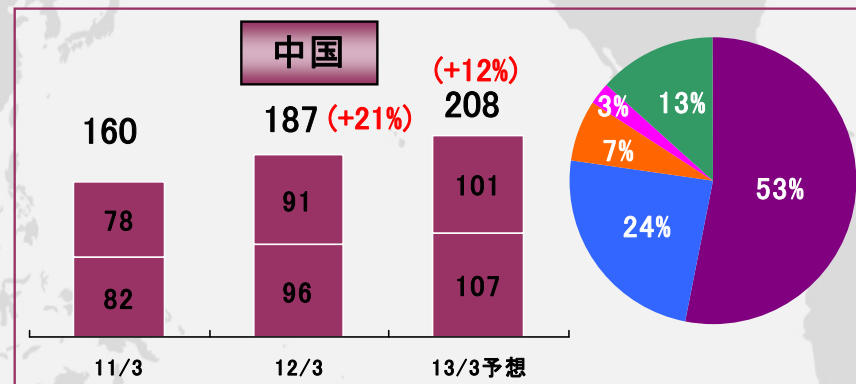
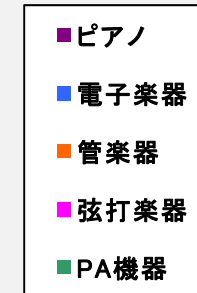
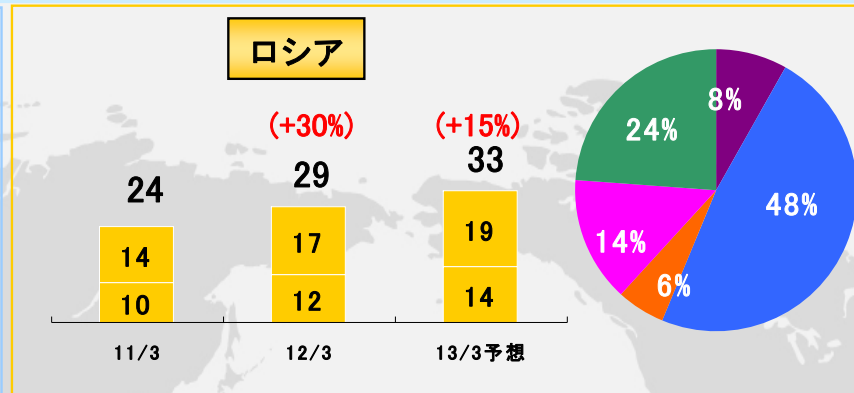
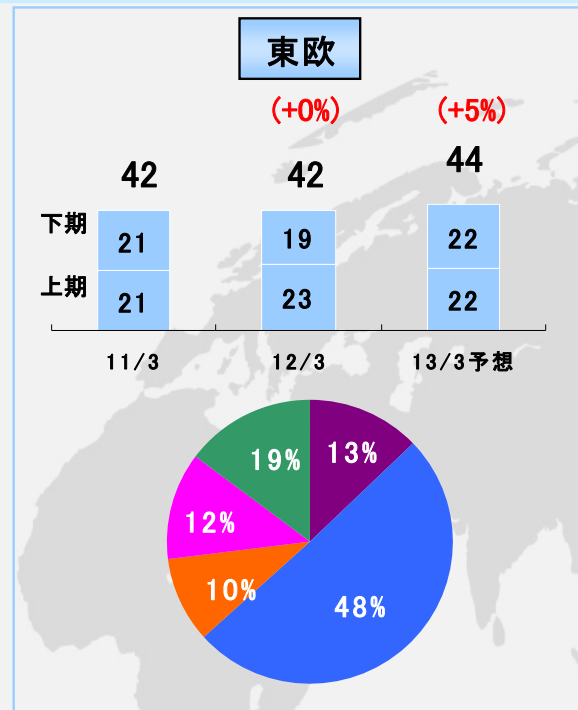
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



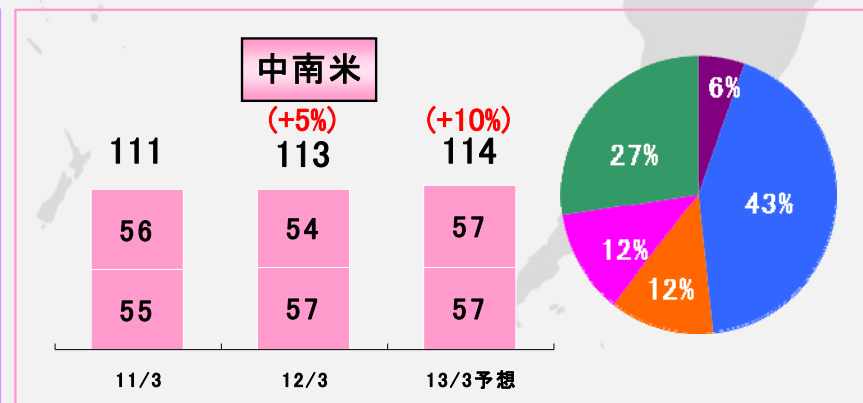
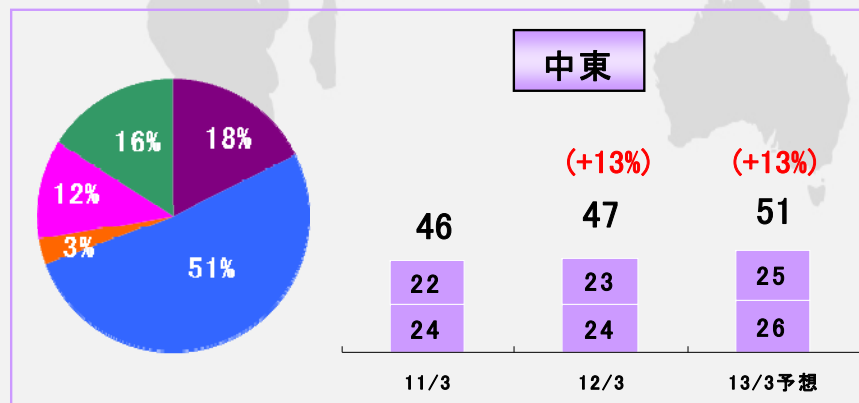
新興国市場の販売状況



(億円)



*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



AV・IT事業(予想)

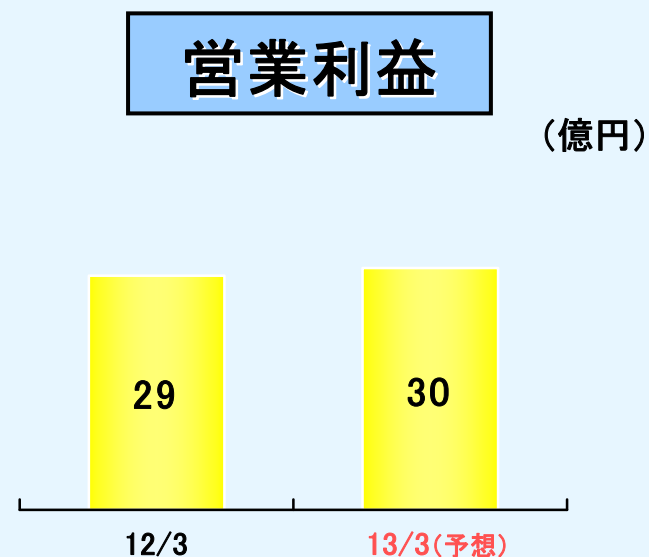
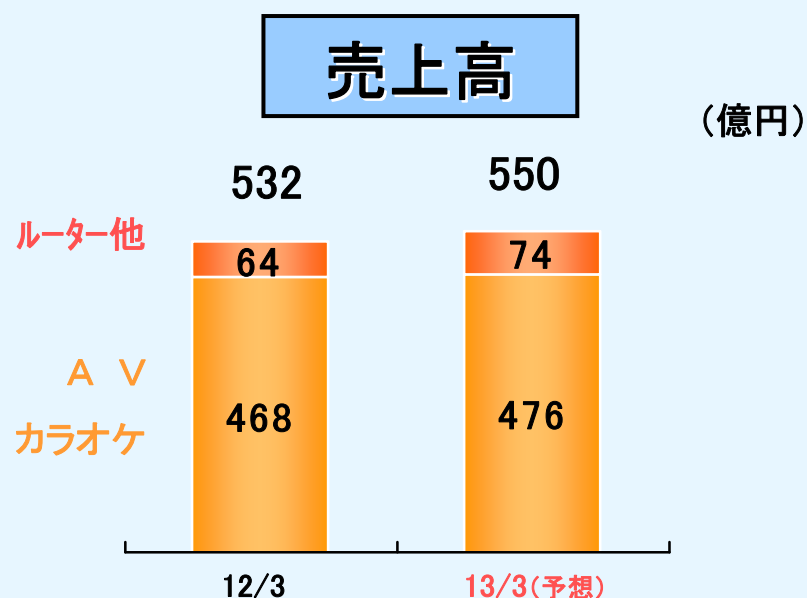


■市場環境

- ・量販店、ネット販売網の競合等加速
- ・新興国市場の成長持続
- ・カラオケ市場は前期並みを想定
- ・ルーター市場は回復基調継続

■重点施策

- ・需要動向を把握した商品導入によるAVビジネスの成長
 - フロントサラウンドシステムの海外市場での拡大
 - 日本市場での販売回復
 - デスクトップオーディオ等新ジャンル商品強化
 - 商品企画、開発手法の見直しによる開発費の削減
- ・通信カラオケの安定供給
- ・ルーターは商品優位性の訴求によるシェア拡大
- ・新領域ビジネスの早期軌道乗せ



電子部品事業(予想)



■市場環境

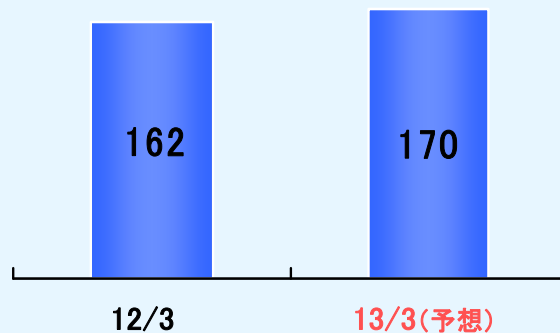
- ・アミューズメント市場停滞
- ・携帯からスマートフォン移行更に拡大
- ・完成品メーカーの競争が更に激化

■重点施策

- ・アミューズメント機器メーカーへの積極的提案
- ・地磁気センサーへの機能強化等競争力強化
- ・車載画像ビジネス拡大
- ・家電向け音源、画像の販売強化
- ・次の成長を担う商品開発のスピードアップ
- ・設計、開発等の効率化、コストダウンの推進

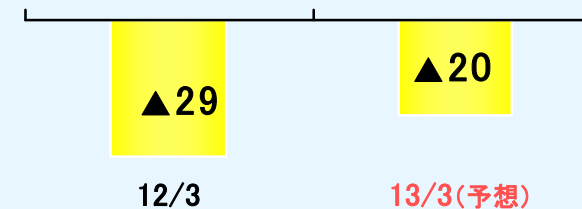
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



その他の事業(予想)



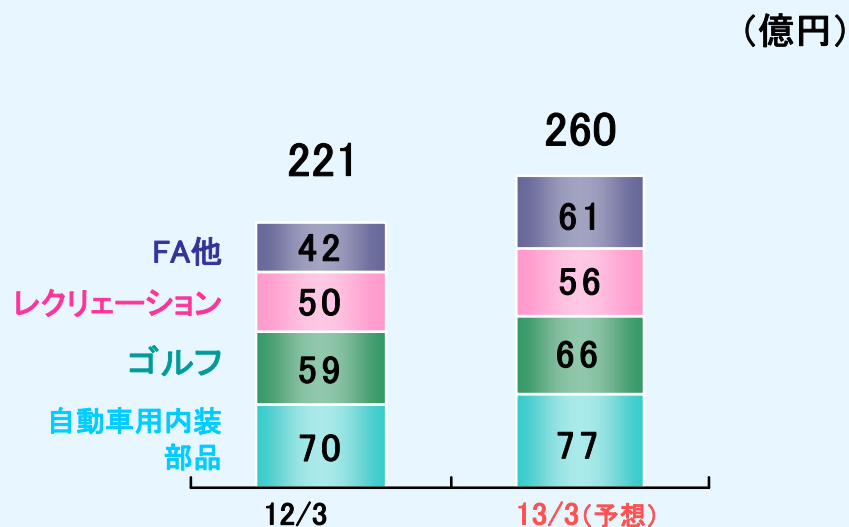
■市場環境

- ・完成車メーカーの生産増等震災影響からの回復も高級車の動向は不透明
- ・スマホ、タブレットPC等の本格普及
- ・ゴルフは国内市場は前年並み、韓国市場は減速懸念
- ・レクリエーションは、前期の震災影響からの回復期待

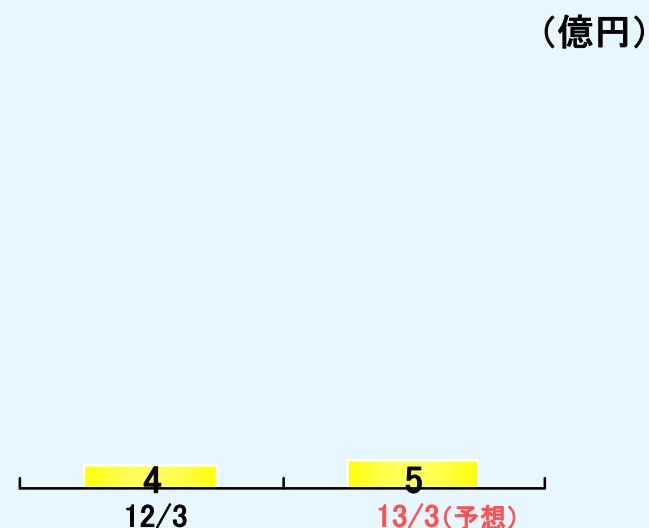
■重点施策

- ・自動車用内装部品は完成車メーカー増産等に確実に対応
- ・FAはコストダウンを含めた競争力の強化
- ・ゴルフは、中国市場での広告販促策等実施
- ・レクリエーションは、オフシーズン対策の実施や各種イベントの開催などで集客数増を狙う

売上高



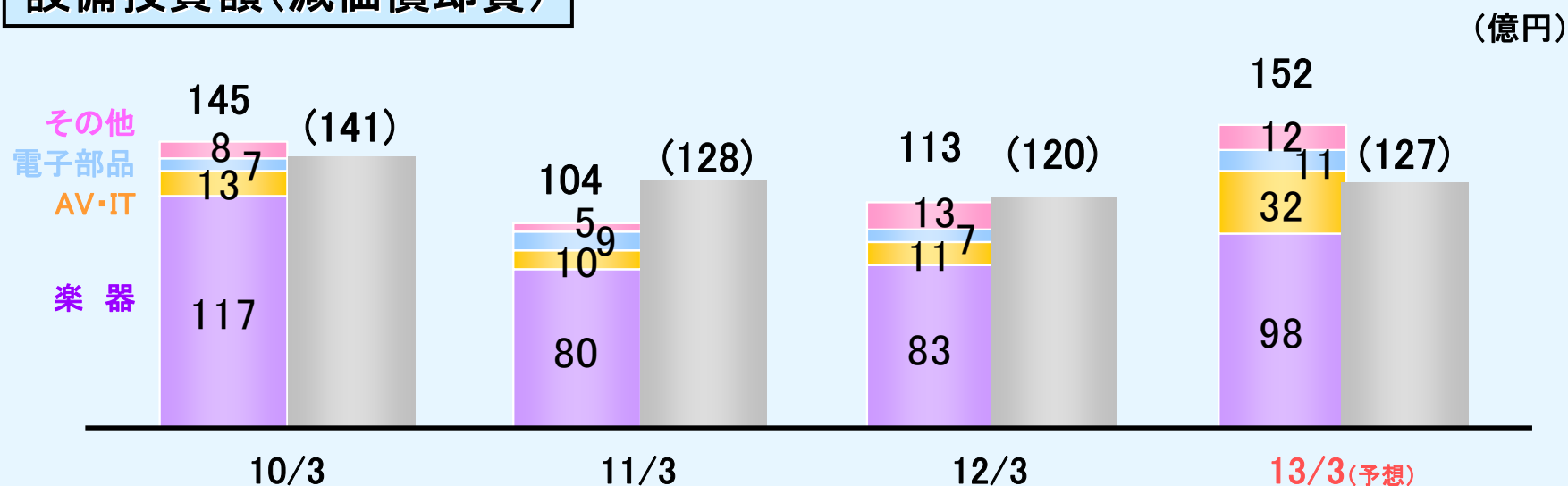
営業利益



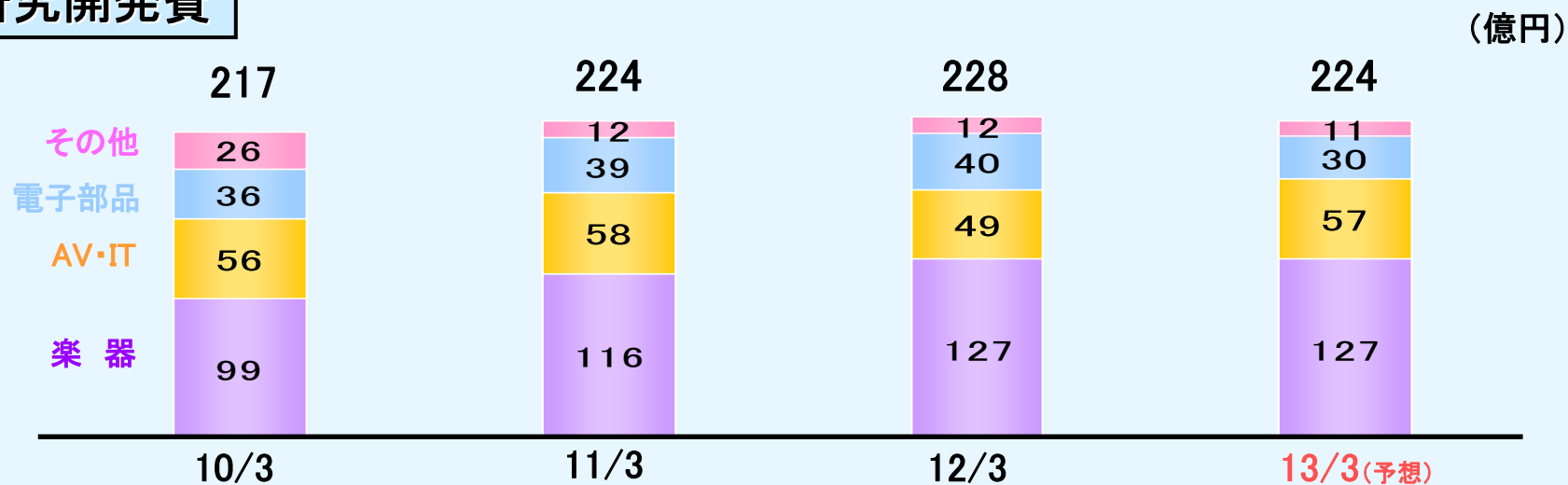
設備投資額・減価償却費/研究開発費



設備投資額(減価償却費)

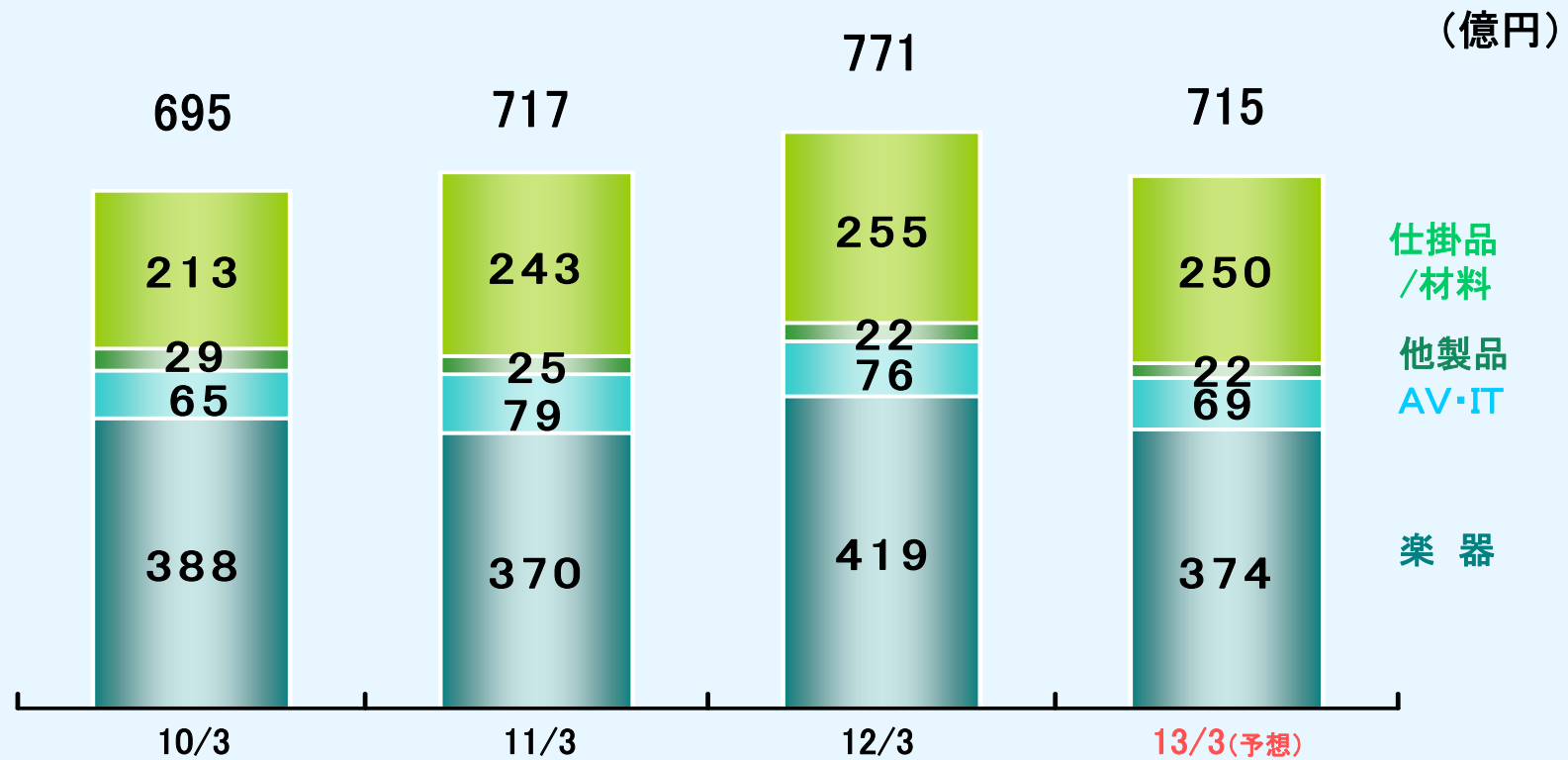


研究開発費



棚卸資産

➤12/3末総在庫は対前期55億円の増加。
(為替影響を考慮すれば実質69億円の増加)



貸借対照表



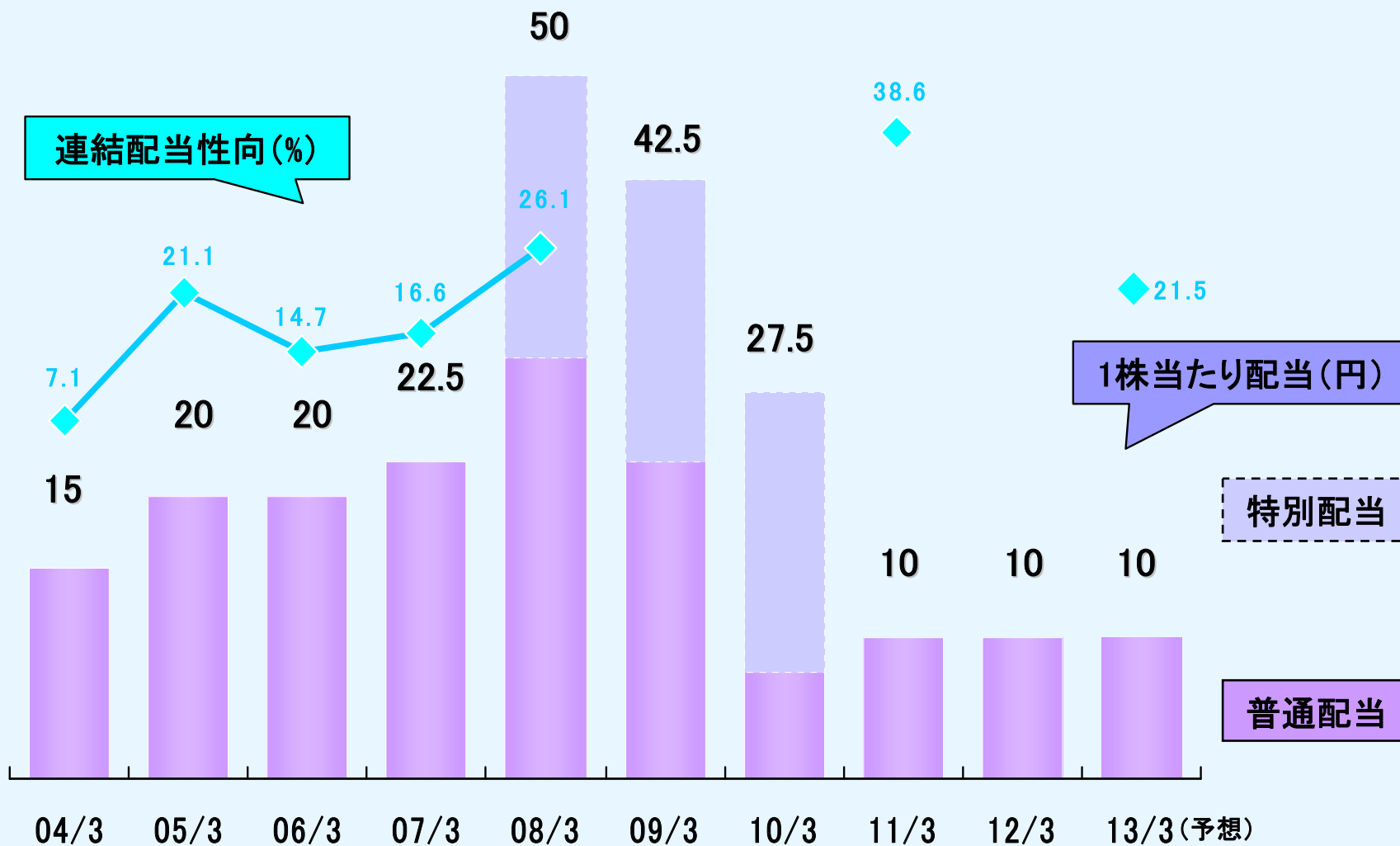
(億円)

	2010/3末	2011/3末	2012/3末	2013/3末予想
現預金	594	587	566	592
売上債権	474	451	445	472
棚卸資産	695	717	771	715
他流動資産	170	192	108	116
固定資産	2,089	1,962	1,776	1,792
資産計	4,022	3,909	3,666	3,686
仕入債務	218	242	223	215
借入金	150	118	113	105
リゾート預託金	161	159	155	155
他負債	947	940	1,107	1,080
純資産計	2,546	2,450	2,068	2,131
負債純資産計	4,022	3,909	3,666	3,686

株主還元



➤ 2013/3期年間配当は、10円の予定(連結配当性向は21.5%)



■中国・新興市場での成長加速

- '15/3期に両市場合計で1,000億円の売り上げ実現に向けた商品、販売網、店舗、普及等の施策の着実な推進

■「国内事業構造改革プロジェクト」の推進

- 日本国内事業を抜本的に見直し、単体営業黒字を目指す
⇒ 4月1日付でプロジェクトを発足

■新たな事業の創出 「yamaha+」

- 既存プロジェクトの成果出し
- 新規事業提案の仕組作り

付属資料

2012/3期 4Q業績



▶ 対前年同期、減収 対前回予想では増収

(億円)

	11/3期 (4Q) 実績	12/3期 (4Q) 実績	前年 同期比	12/3期 (4Q) 前回予想	前回予想比
売上高	884	860	▲2.8%	834	+3.1%
営業利益	▲32	▲29	—	▲35	—
経常利益	▲34	▲22	—	▲35	—
当期利益	▲49	▲321	—	▲27	—

為替レート

(円)

売上高	US\$	82	79	75
	EUR	113	104	105
利益	US\$	82	78	75
	EUR	112	104	105

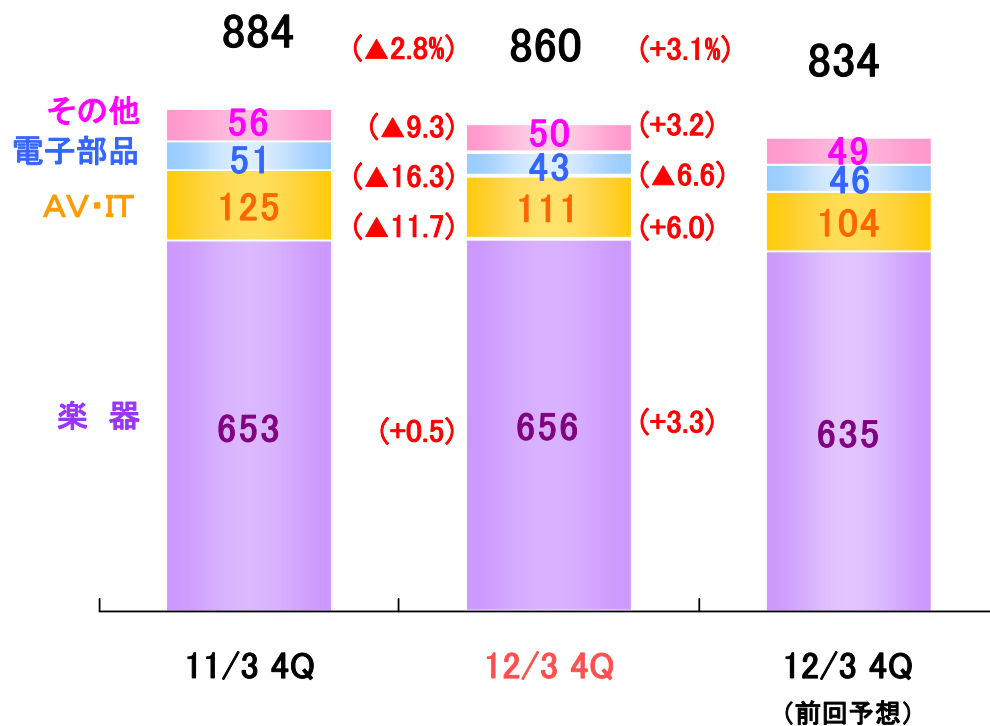
* 前回予想は2012/2/2発表

2012/3期 4Q事業別業績



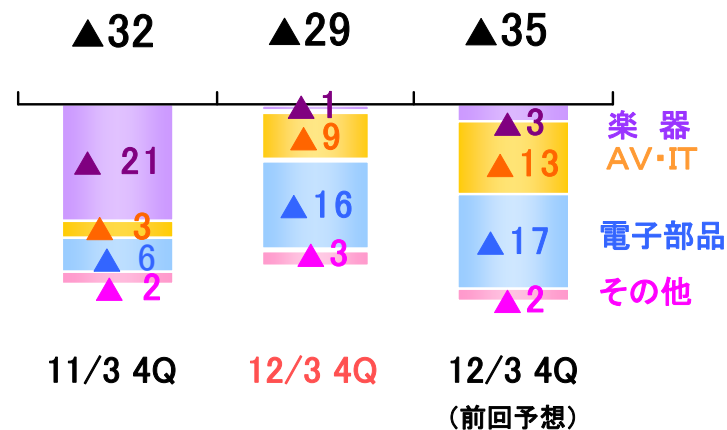
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



()内は前年同期比
または
前回予想比

* 前回予想は
2012/2/2発表

	為替影響額
前年同期比較	▲22億円 (楽器 ▲17億円、AV・IT ▲4億円、 電子部品 ▲1億円)
前回予想比較	+11億円 (楽器 +9億円、AV・IT +2億円、 電子部品 +1億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲8億円 (楽器 ▲6億円、AV・IT ▲2億円)
前回予想比較	+0億円 (楽器 +0億円、電子部品 +0億円)

通期営業外損益、特別損益



	11/3期 実績	12/3期 実績	13/3期 予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	7	13	7
その他	▲29	▲21	▲22
計	▲22	▲8	▲15
特別損益			
固定資産処分損益	▲2	▲1	▲2
その他	▲40	▲2	▲3
計	▲42	▲3	▲5
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;"> ・投資有価証券評価損 ▲15 ・減損損失 ▲27 </div>			
法人税他			
法人税等	43	40	32
法人税等調整額	▲30	321	
少数株主利益	4	3	3
計	17	364	35

楽器四半期別売上高／営業利益

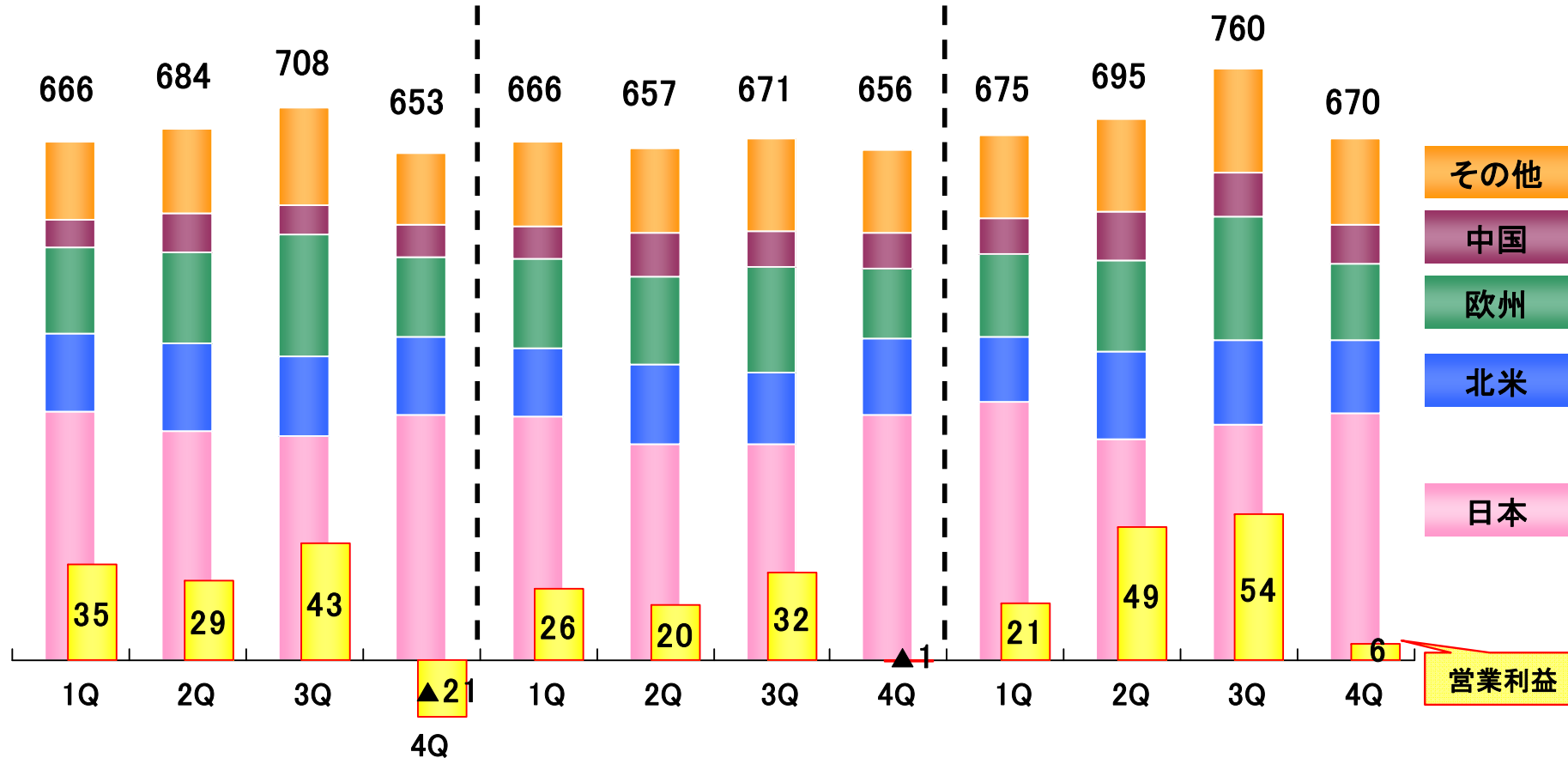


売上高 2,711億円
営業利益 86億円

売上高 2,651億円
営業利益 77億円

売上高 2,800億円
営業利益 130億円

(億円)



11/3期

12/3期

13/3期(予想)

AV・IT四半期別売上高／営業利益

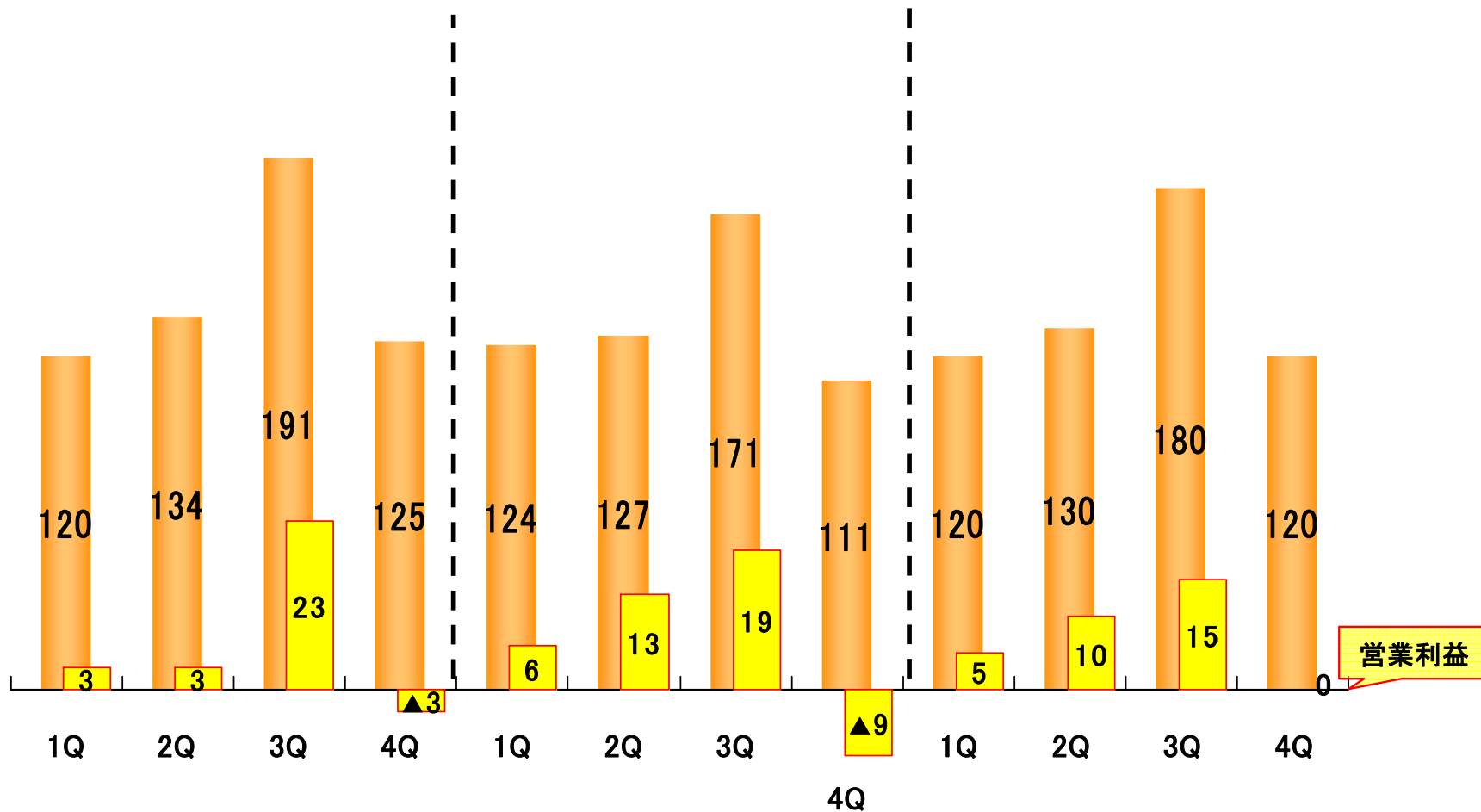


売上高 570億円
営業利益 25億円

売上高 532億円
営業利益 29億円

売上高 550億円
営業利益 30億円

(億円)



11/3期

12/3期

13/3期(予想)

営業利益

電子部品四半期別売上高／営業利益

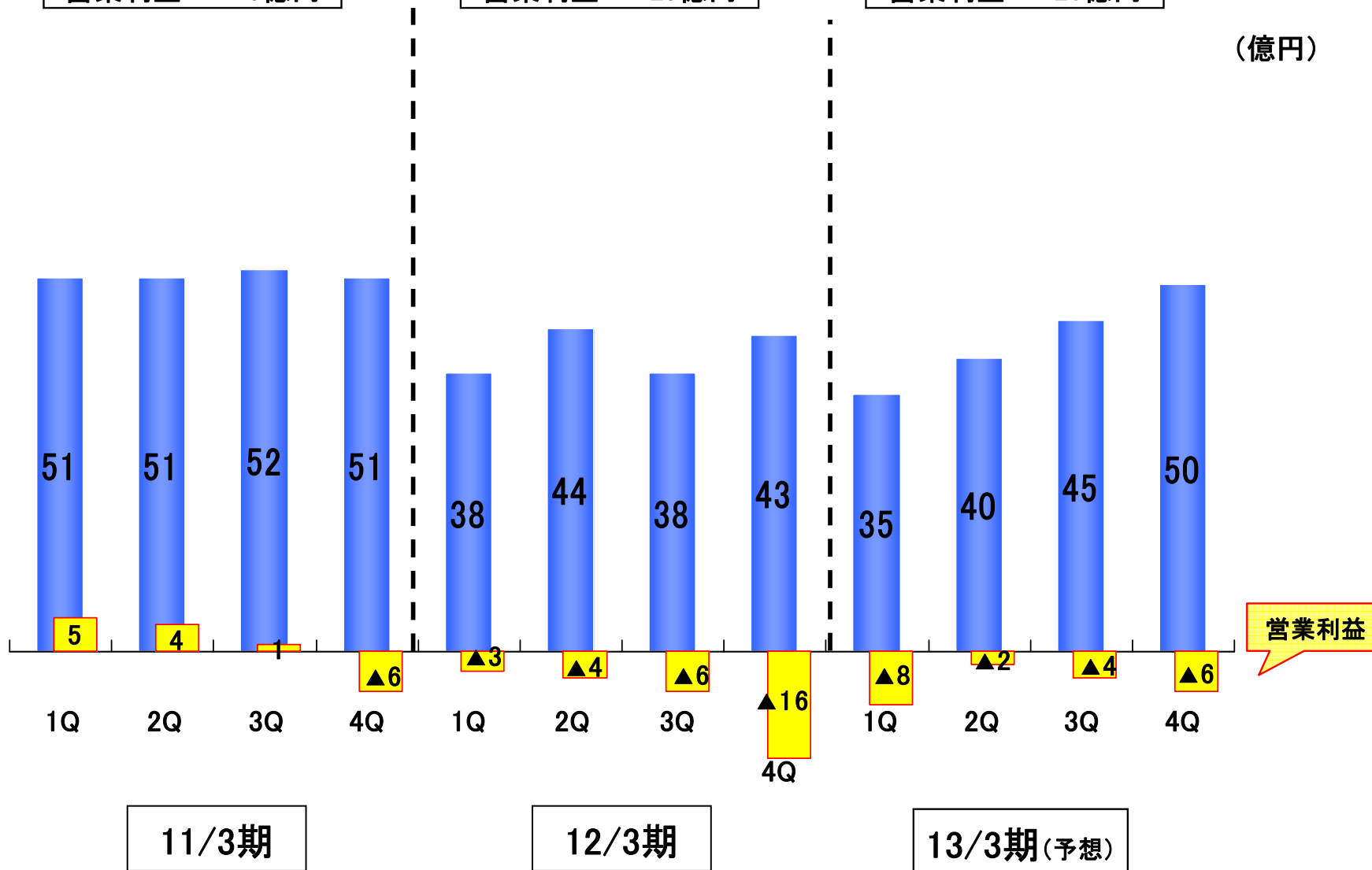


売上高 206億円
営業利益 5億円

売上高 162億円
営業利益 ▲29億円

売上高 170億円
営業利益 ▲20億円

(億円)



その他四半期別売上高／営業利益

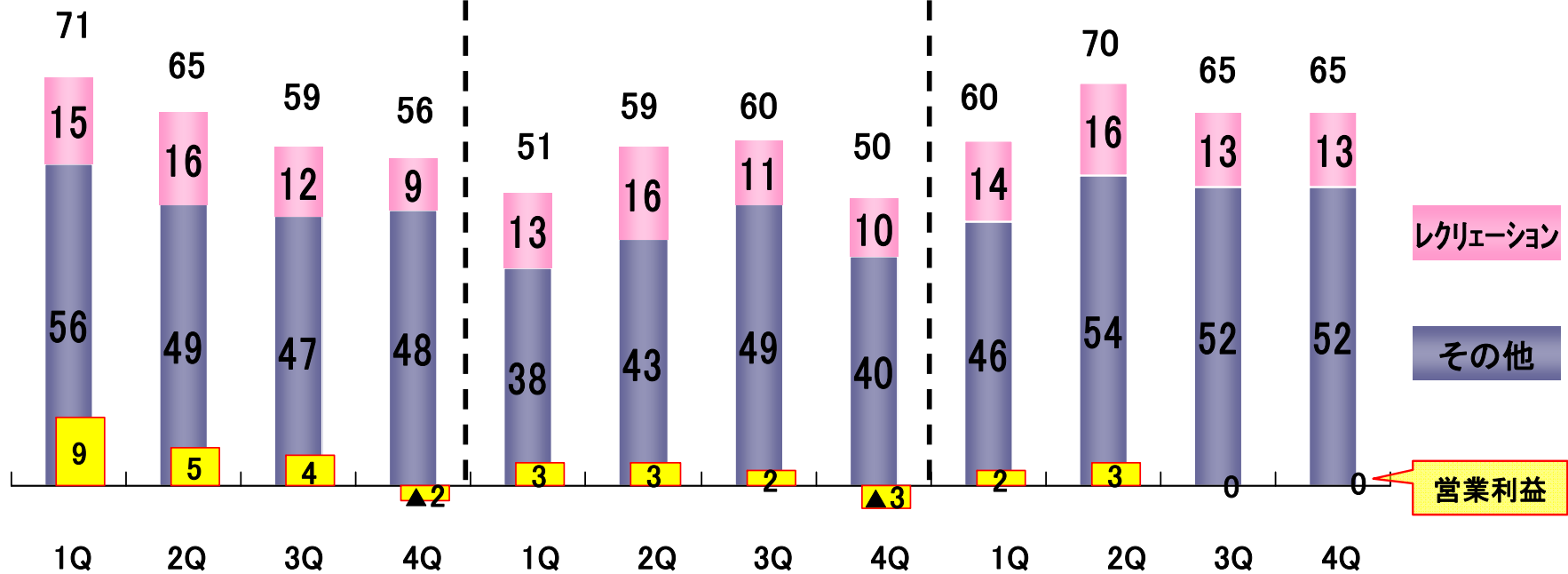


売上高 251億円
営業利益 15億円

売上高 221億円
営業利益 4億円

売上高 260億円
営業利益 5億円

(億円)



11/3期

12/3期

13/3期(予想)

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。